

編集委員長からのご挨拶

RMB (Reproductive Medicine and Biology) 誌は、2020 年に初めてのインパクトファクター3.239 を獲得してから、2021 年は 4.009、2022 年は 3.4 と順調な滑り出しを見せています。今後は、アメリカの Fertility & Sterility、ヨーロッパの Human Reproduction と並ぶ、アジアの Reproductive Medicine and Biology の位置を確立したいと思っています。

RMB 誌は、2002 年に日本生殖医学会、日本受精着床学会、日本アンドロロジー学会のオフィシャル・ジャーナルとして発刊されました。そして、2016 年にはアジア子宮内膜症学会が、2020 年には日本卵子学会も加わりました。現在、順調に投稿、掲載論文数が増え、年に 60 編以上の質の高い Invited Review や Original Article が掲載されています。また、2002 年の創刊号から掲載されている全ての論文が PubMed の検索できるようになっています。

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/journals/3326/>

さて、昨年から読者の皆様により良い情報を提供するため、最近の話題に焦点を当てた特集を組み紹介するサービスを始めています。ホームページの“BROWSE”をクリックすると“Virtual Issues”があります。ここに掲載されていますので、是非ご覧ください。

我が国は、年間 40 万周期以上の ART が行われる世界一の生殖医療大国になっています。本邦の生殖医療・医学をさらに向上させ、その情報を世界に発信してゆくことは、生殖医療・医学に携わる我々の重要な使命です。日本が世界の生殖医療・医学を牽引していくためには、日本発の情報発信のツールである RMB 誌をさらに充実させていくことが重要です。RMB 誌が世界に誇れる生殖医療・医学の国際的英文雑誌として、さらに発展しますように、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024 年 2 月吉日
日本生殖医学会編集担当理事
RMB 誌編集委員長
杉野 法広